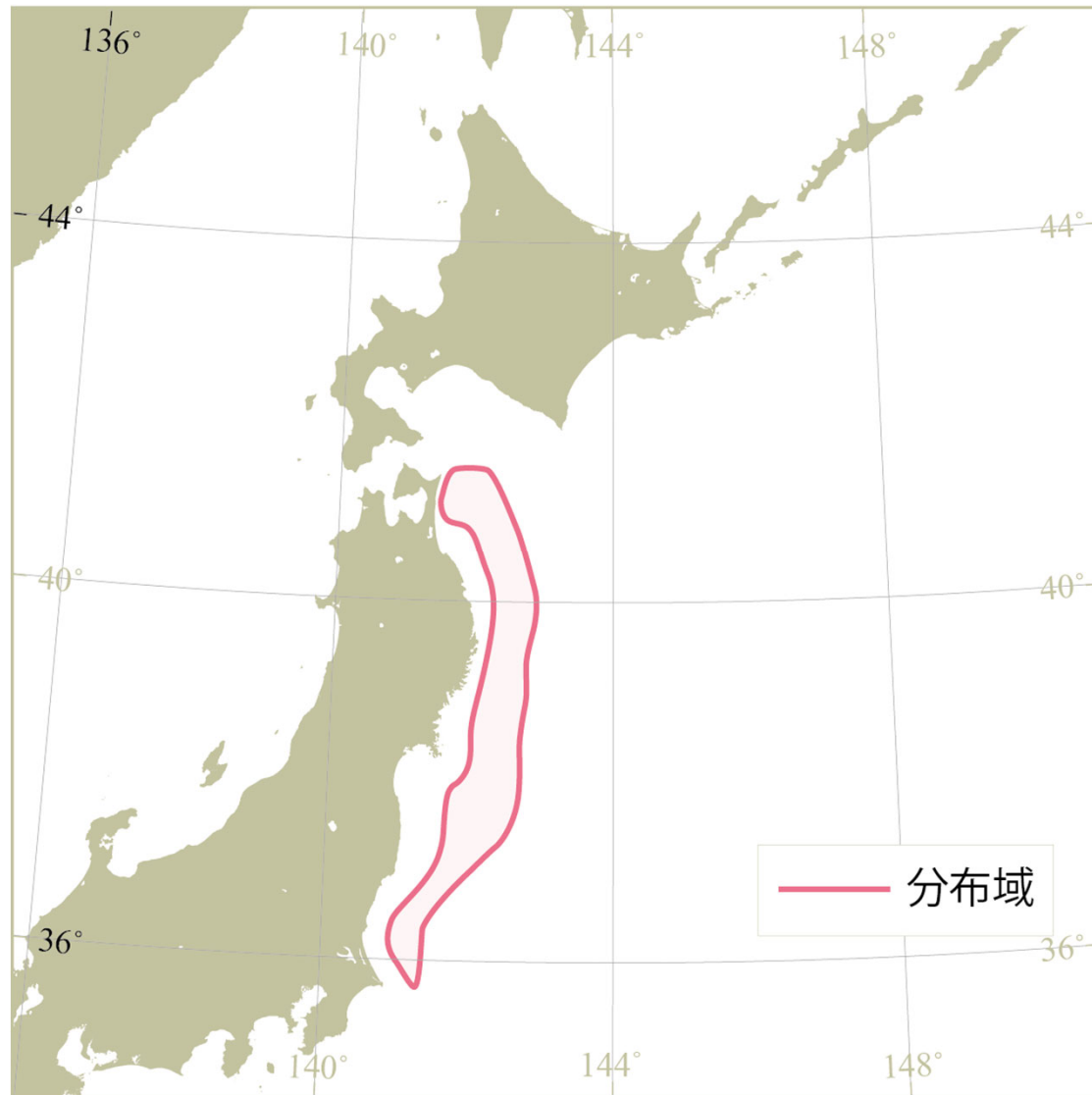




キチジ太平洋北部 令和 8 年度資源評価結果

生物学的特性

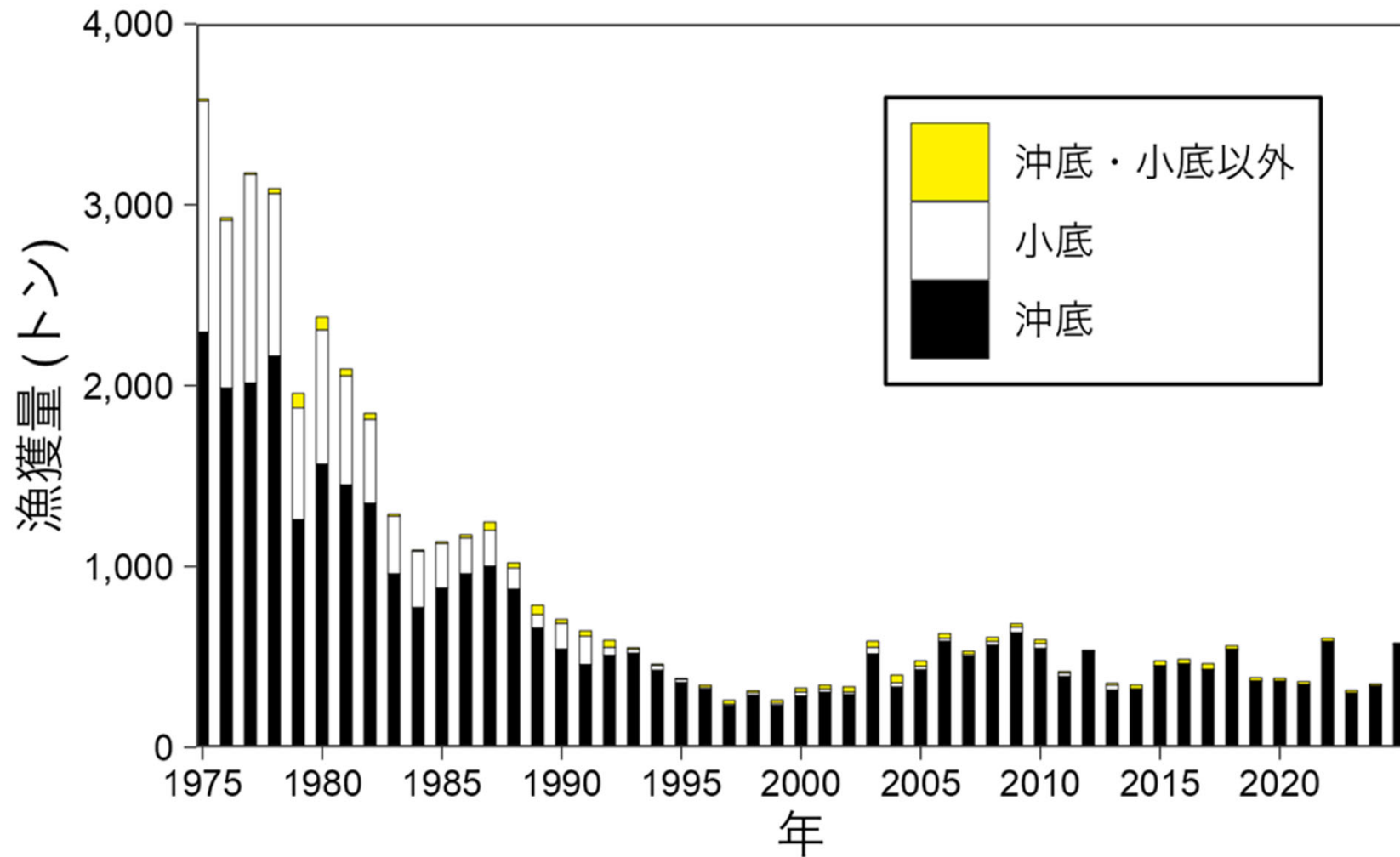


生物学的特性

- 寿命：20歳程度
- 成熟：雄 5歳以上(100%)、雌 10歳(11%)、11歳(35%)、12歳(69%)、16歳以上(100%)
- 産卵期・産卵場：1～4月、分布域全体
- 食性：エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類、魚類
- 捕食者：マダラ、アブラガレイ

- 太平洋北部（沖合底びき網漁業の太平洋北区に相当）では水深350～1,300m付近の深海域に生息し、水深500～800mの分布密度が最も高い

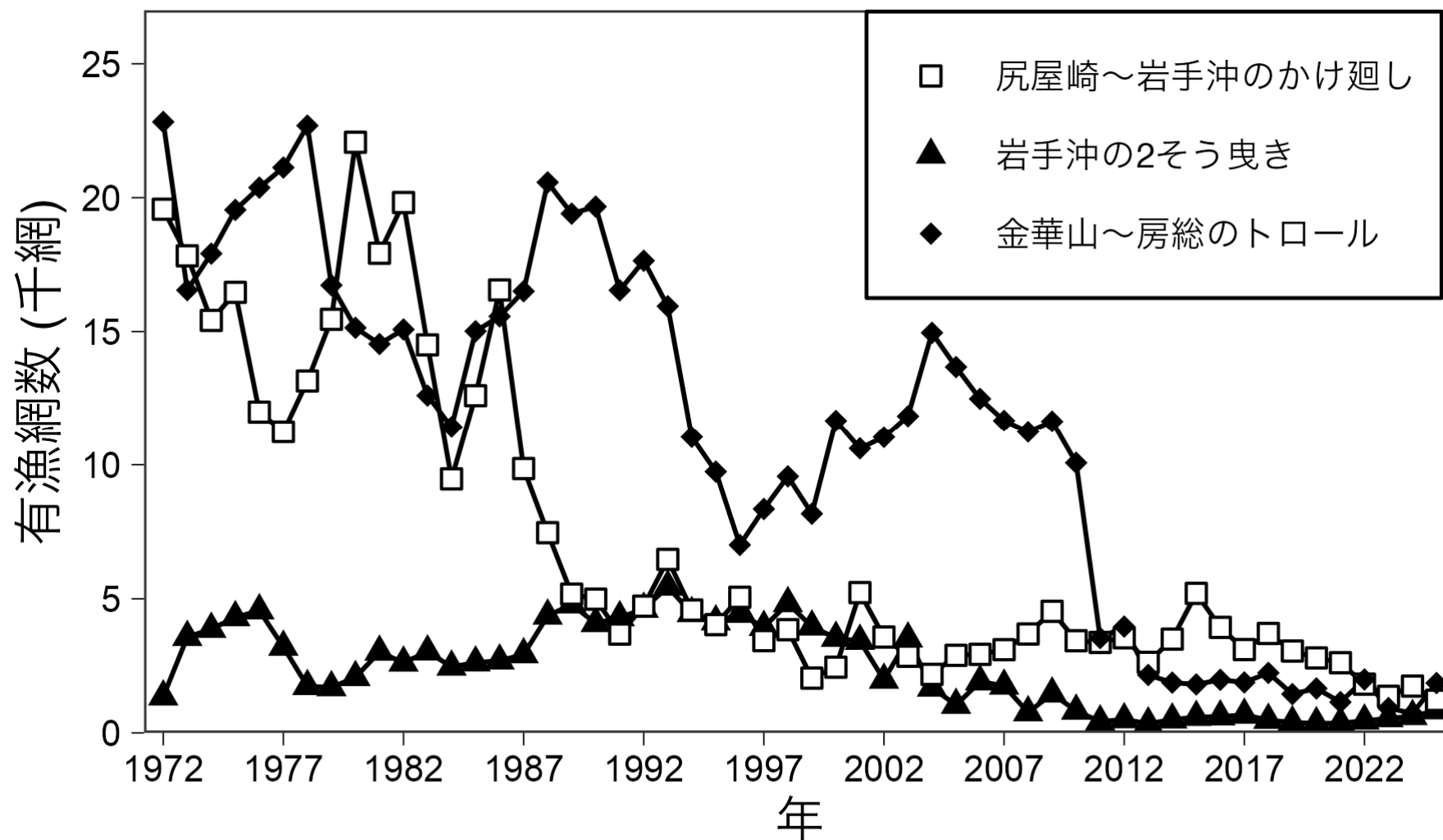
漁獲の動向①



- 2025年の漁獲量：573トン
- 沖合底びき網漁業（沖底）の割合が高い

※小底：小型底びき網漁業

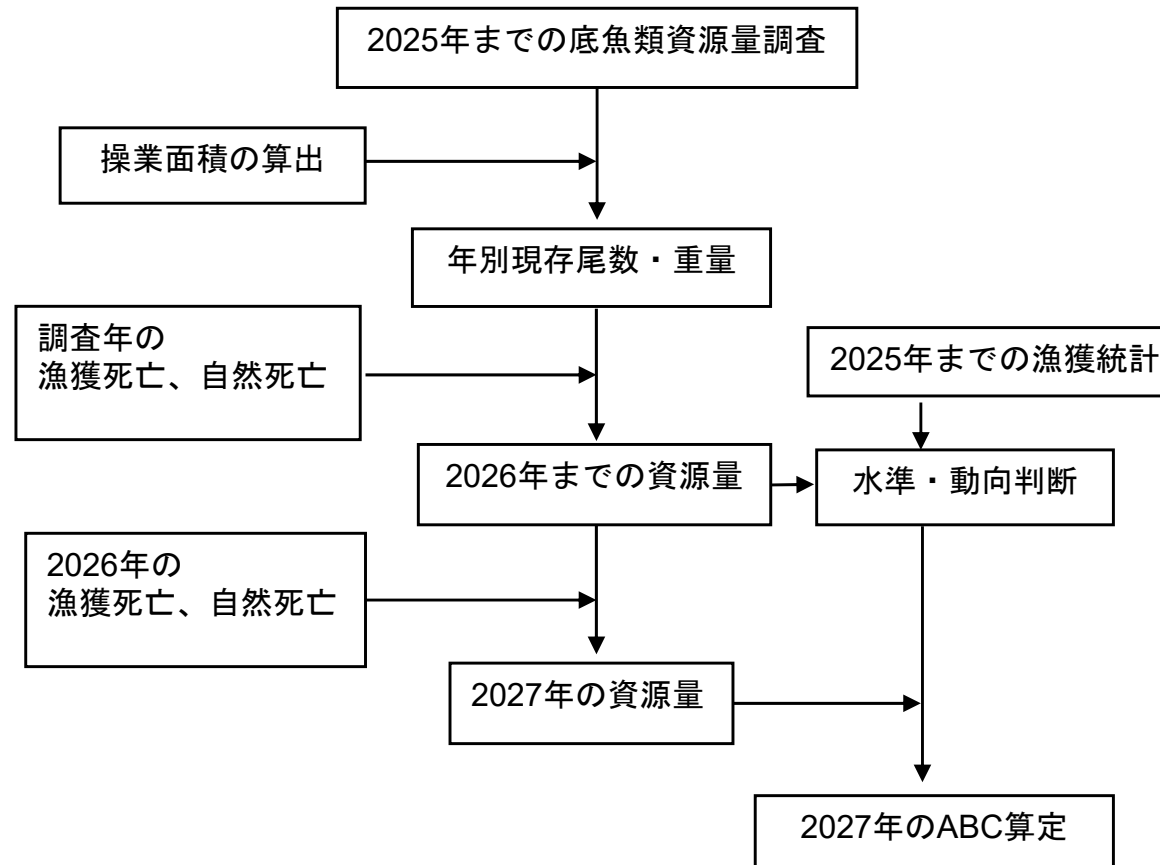
漁獲の動向②



- 近年の太平洋北部の各海域における沖底の主要な漁法の有漁網数は、過去の有漁網数と比較してすべての海域で低い水準にある

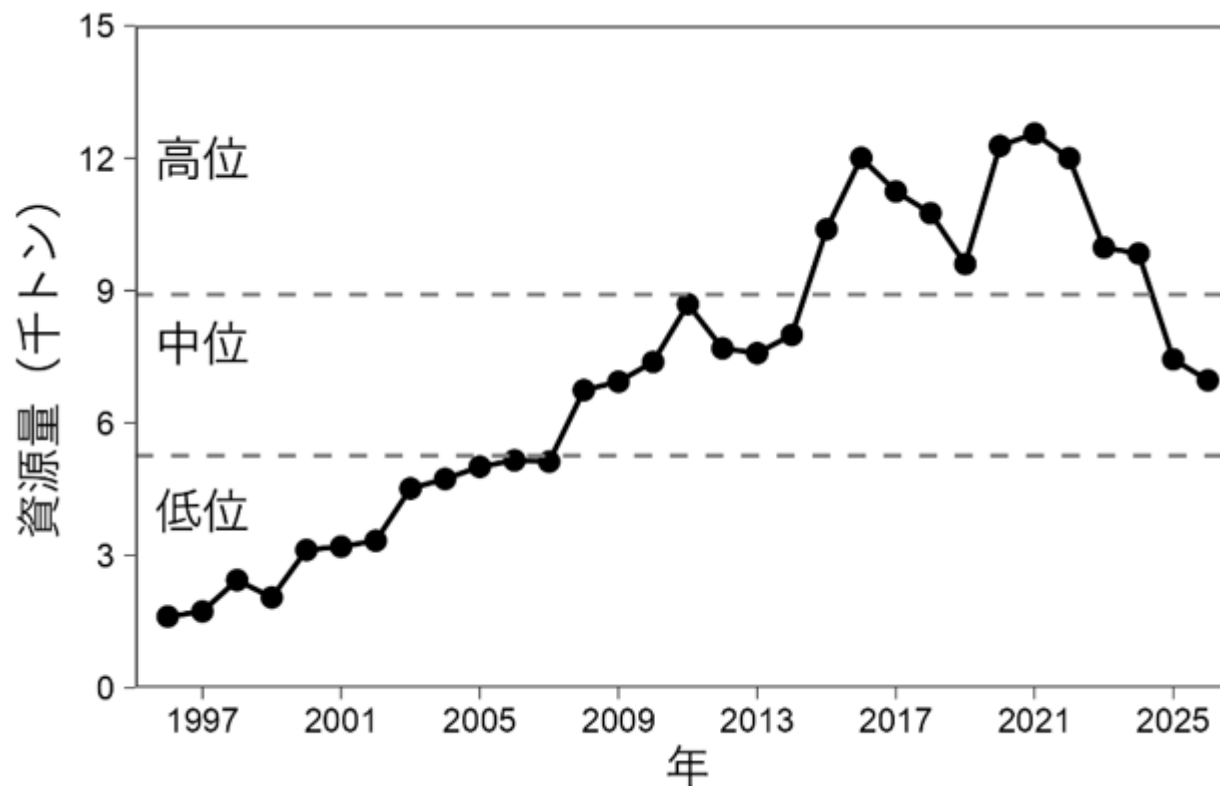
※有漁網数：キチジが漁獲された日の網数を漁船ごとに集計したもの

資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

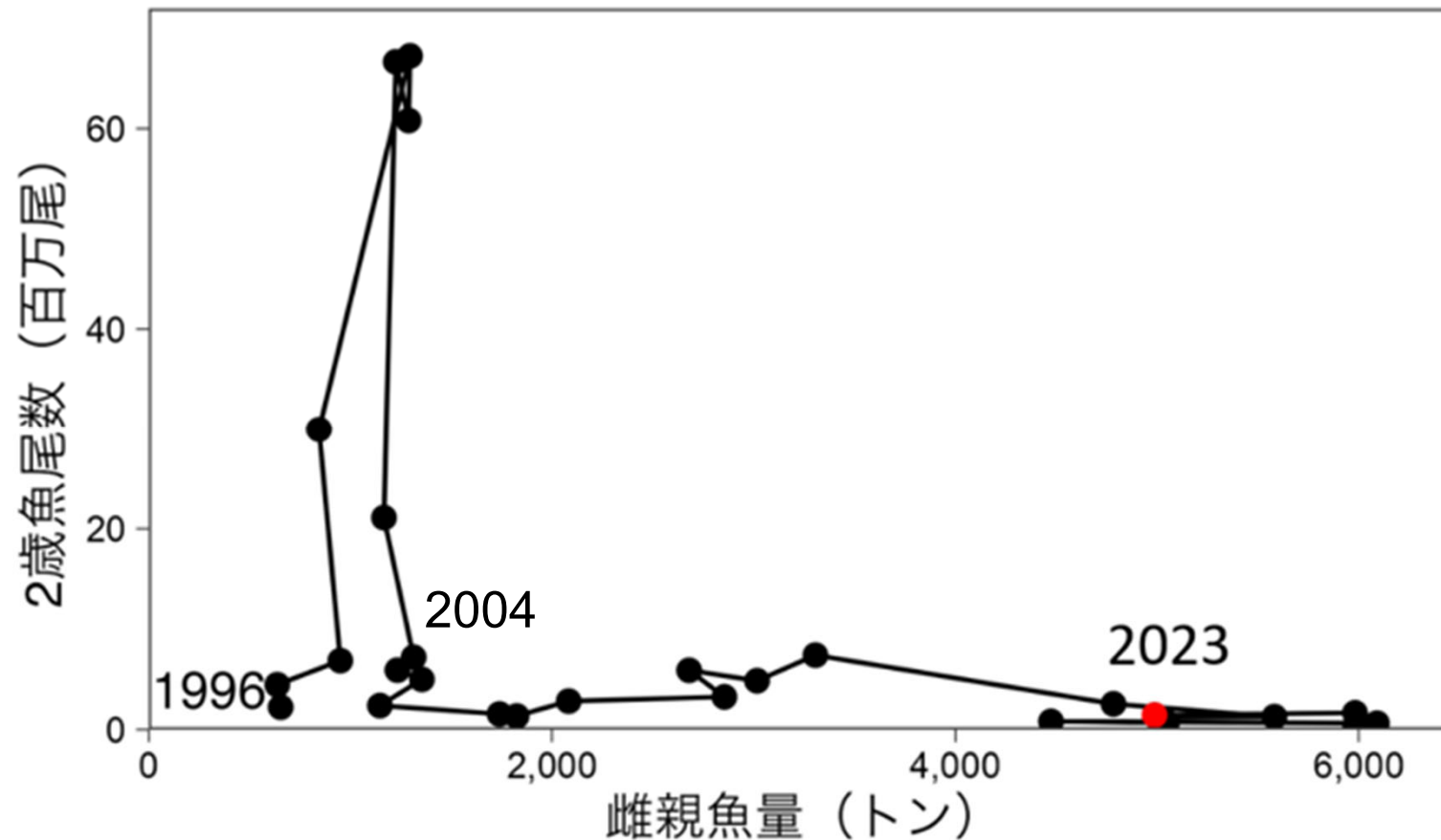
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：資源量5,259トン、中位／高位：資源量8,909トン
(1996～2026年の資源量の最小値1,611トンと最大値12,558トンの間を3等分)

- 資源水準：2026年の資源量は6,966トンで「中位」
- 資源動向：直近5年間（2022～2026年）の資源量の推移から「減少」

資源の動向②



- 雌親魚量（親魚量）と2歳魚尾数（加入量）に明瞭な関係はない
- 2004年級群以降、親魚量が多い一方、加入量は少ない

資源評価のまとめ

- 面積密度法で資源量を推定
- キチジ太平洋北部の資源水準は「中位」、動向は「減少」

2027年ABC

管理基準	Target/ Limit	2027年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの 増減%)
0.8F40%SPR	Target	210	3.4	0.037 (-30%)
	Limit	260	4.3	0.047 (-12%)

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の1-3)-(3)に基づき、 $F_{limit}=0.8F_{40\%SPR}$ で計算
- F40%SPR : 漁獲がなかった場合の40%の親魚量を取り残す漁獲圧